２０１０／０７／１８　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：あなたは輝いていますか３
聖書箇所：マタイの福音書　５章１４－１６節

私たちはこれまで何度か同じみことばを通して学んで来ました。それは、創造主なる神が私たち被造物に与えられた最も大切な命令についてです。それは主なる神を愛し、隣人を自分と同じように愛するということでした。主イエス・キリストはあなたがそれを行なうなら、あなたは永遠のいのちをいただくことができると語られました。それが具体的にはどういうことなのかを今まで見て来ました。主を愛するとはどういうことなのか？つまり、それは主なる神を何ものよりも、自分自身よりも愛することです。自分の思いや考え、ことばや態度、行動に至るまで、すべてが完全で神に喜ばれなければならない。そういうことを実践出来る人がいますか？これが神の命令である以上、神は私たちに全面的な服従を要求されているのです。果して、全面的に主に従い続けることができる人などいますか？悲しいことに、この命令に従える人間はいません。神が望んでおられるように、すべての点で完璧に神を愛することができる者、そのような存在は私たちの周りにはいません。そして、もちろん私たち自身も。

なぜ、こんな命令が与えられたのでしょう？一つは、私たちが神の基準からどれほど外れているかを私たち自身に気付かせるためです。つまり、神が要求されているものに私たちは到達出来ない者であると、そのことを私たちに悟らせるためです。つまり、言い方を変えるなら、私たちはどんなに努力しても、私たちの行ないによって私たちが永遠のいのちを得ることはないということを私たちに悟らせようとされたのです。神はそのことをご存じです。私たちには不可能なこと、私たちが不完全なことを。私たちが分かっていないのです。だから、私たちがどれ程神の前に不完全な者であるかを悟らせるために神はご自身の基準を示されたのです。

また、皆さん、どうですか？隣人をあなた自身のように愛せよというこの命令、あなたの隣人を主なる神が愛してくださったその同じ愛をもって愛しなさいと言います。犠牲をはらって、自分よりも彼らを優先して彼らの最善のために尽くしなさいと言います。確かに、そのように主なる神は命ぜられました。ヨハネ１５：１２**「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」**、命令だと言われます。ハードルは高いですね。なぜなら、だれ一人、そのような愛をもって隣人を愛することはできないからです。私たちは残念ながら、悲しいことに、この神の与えてくださった最も大切な命令に従うことのできない者です。

では、神は私たちに私たちはどれ程頑張っても神の基準には到達しない不完全な者だということを悟らせる、その目的のためだけにこのような命令を与えたのでしょうか？違うのです。もちろん、それを悟らせようとなさった。でも同時に、これらの命令は実践することが可能なのです。なぜなら、このような命令に私たちが従って行くことによって、私たちがこの間から見て来たように、マタイの福音書５章１４－１６節で、私たちは「世界の光である。地の塩である。」と言われましたが、私たちはそのような働きを為すことできるようになるのです。前回も見たように、人々に主なる神への渇きを与える者として、この世に主のすばらしさを行ないを通して証する、そのような者である私たちが、その神のすばらしさをもっと鮮明にこの世に証して行くためには、皆さん、神が命じておられることに従って行くことです。神が私たちに与えてくださったこの聖書のみことばに従うことによって、あなたは変わって来ます。どのように変わるのでしょう？地の塩として人々にもっと渇きをもたらす者に、世界の光としてこの神のすばらしさを世の中の暗やみの中にいる人々に、益々鮮明に輝かせて行く、そのように変わって行くのです。

ですから、私たちが覚えなければいけないことは、このような命令は私たちには「できません。」で終わるのではないのです。出来ること、可能なことです。でも、そのためには神の助けが必要なのです。私たちが見て来たように「このようにしなさい。」と言われて、私たちはどれだけ失敗して来たことでしょう。守れないことの多い者です。自分の力には限界があります。強いと信じたいのですが、私たちは弱い者です。自分のいのちも自分でコントロールできない、それほど私たちは弱い者です。私たちが気づかなければいけないのは、神はそのことを知っているということです。なぜなら、この方によって私たちは造られたからです。だから、私たちに必要なことは、私たちのことを分かってくださり、私たちの弱さをご存じである神の助けにすべてを委ねて、その方に力をいただきながら生きて行くことです。実は、そのことを聖書は私たちに繰り返し教えるのです。そうでなければ、すべての神の命令は私たちにとってただの重荷です。なぜなら、実践することは自分の力では無理だからです。神の助けによって

実践して行くことによって、私たちは神によって変えられて行きます。それが私たち信仰者の生き方です。そのように聖書が私たちに教えてくれているのです。まず、このような命令を私たちが守り行なって行くために、実践するためには神の助けは不可欠です。神を愛するために、隣人を愛するためにはまず、私たちが神の愛をいただかなければならないのです。

☆愛の実践のために

Ａ．神の愛が必要

１．愛の源：神の愛

最初に、愛の源とは「神の愛」です。Ｉヨハネ４：７に**「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」**とあります。つまり、神を愛する愛も、隣人を愛する愛も、私たちの内にはないのです。神の愛で神を愛し、神の愛によって人を愛するためには、その源である神の愛をいただかなければいけないのです。神の愛をいただいくことによって、私たちはその愛によって愛することができる者へと変わるのです。ですから、まず、私たちがこの命令を実践して行くためには、神の愛をいただかなければいけません。

２．愛の模範：行ないの伴った愛＝主イエスの犠牲

私たちが神の愛を見る時にそこに大切な模範を見出します。神の愛とは、ただ「愛している。」ということばではありませんでした。行ないの伴った愛、犠牲の伴った愛でした。ローマ５：８に**「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」**とあり、創造主なる神のあなたに対する愛は、罪のないお方があなたの十字架を代わりに取ってくださったという行為です。あなたの十字架をイエス・キリストが代わってその身に負ってくださったのです。自分のいのちを捨てて、あなたに救いを備えようとした、自分のいのちを喜んで犠牲にして、あなたに罪の赦しを与えようとした。ここに私たちは神の愛を見ます。もし、あなたが愛されていないと思うなら、十字架を見上げてください。あなたが愛されていることの証拠です。主イエス・キリストはあなたの十字架を負われたのです。あなたの罪を負われたのです。あなたに代わってそのさばきをお受けになったのです。ですから、私たちは神の愛をいただくことにより、そして、しっかりとした模範を前に据えて、その主の愛に倣って私たちは変えられて行くのです。そのような希望を持って生きて行く者です。

３．愛の実践：変化が与えられる

神の愛を受け入れることによって私たちは生まれ変わったのです。どのように生まれ変わったのでしょう？神の愛をもって愛する人へと生まれ変わったのです。Ｉヨハネ３：１４**「私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。」**、つまり、救いのことです。**「自分が死からいのちに移ったことを知っています。」**、なぜなら、**「それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。」」**、つまり、これまで兄弟を愛さなかった私たちが兄弟姉妹を愛する者へと変わったのです。なぜですか？救われたからです。ですから、イエスを信じて罪が赦される前、私たちは人を愛することの出来ない者でした。自分の愛したい人を愛することはできたとしても、すべての人を神が愛されたように愛することは不可能でした。でも、救われることによって、私たちにそれが可能になったと言うのです。隣人を愛する愛においても、神を愛する愛においても私たちは変わったのです。Ｉペテロ１：８－９でペテロはこのように言っています。**「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」**、イエスをまだ見たことはないけれどもイエスのことを愛していると言うのです。なぜ、そんなことが起こったのでしょう？その理由が記されています。**「:9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。」**、つまり、「あなたは救われているからだ」と言うのです。ということは皆さん、罪が赦されて救われるということは、私たちにとても大きな変化をもたらしたのです。それは隣人を愛する者、神を愛する者へと生まれ変わったことです。そして、神が私たちをそれが実践出来る者にしてくださったのです。

ですから、神の愛を受け入れなければ人を愛することはできません。自分勝手な愛ではなく、神の愛を見てその愛に倣うことです。なぜなら、そのような者へと神は私たちを変えていってくれるからです。どうすれば神を愛する者となるのでしょう？どうすれば私たちは隣人を愛する者となるのでしょう？この神の愛をいただくことです。つまり、救いをいただくことによってそれが可能となるのです。これが最初のステップです。

適用：あなたはこの主なる神を信じていますか？

Ｂ．愛の神の助けが必要

１．神の助け：備えられた聖霊なる神の助け

神を愛するため、また人を愛するためには、神の愛を受け入れるだけでなく、愛の神の助けが必要です。そのために神は私たちに助けを備えを与えてくれています。ヨハネの福音書１４：１６には**「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」**とあります。皆さん、感謝なことに、神はあなたが説明しなくてもあなたのことを知っていると言うのです。あなたの弱さも知っている、あなたの問題も知っている、あなたの喜びも知っていると。もちろん、そうでなければ神ではありません。私たちがどんなに弱い存在であるか、神の命令を聞いても実践出来ない者であることを知っておられるのです。イエスを信じても、生まれ変わっても、私たちはすべての点で完璧に主に従えるのかというと、出来ません。そのことを知っておられる神は、私たちのために助けを備えてくださっているのです。

それは聖霊なる神です。あなたがイエスを信じたその瞬間に、聖霊なる神はあなたに内住してくださり、その方があなたを助け続けてくださるのです。なぜ、聖霊が与えられたのでしょう？その理由の一つは、あなた自身が神のみこころに従って歩んで行くための助けを与えるためです。あなたが神のみこころに従って歩んで行くために聖霊は助けをくれるのです。なぜなら、あなたがみこころに従って歩んで行くなら、あなたは変わって行くからです。あなたは世の光として益々神のすばらしさを証する者になります。地の塩として益々人々に渇きを与える者になります。あなたは神に喜ばれる者へと益々変わって行くのです。ですから、私たちは神が備えてくださったこの助けをいただきながら歩んで行くことが必要です。それと同時に、実は、聖書は私たち信仰者一人ひとりの責任も教えるのです。

２．人（信仰者）の責任：ガラテヤ５：１３－２６

神のみこころに従って行くために神は備えを与えてくれました。しかし同時に、あなたには責任があると聖書は私たちに教えます。ガラテヤ５：１３－１５を見てください。**「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。:14 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。:15 もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。」**

１）信仰者：自由を得た者　　１３節

１３節に**「あなたがたは、自由を与えられるために召された」**とあります。つまり、クリスチャンとは自由を得た者、自由を与えられた者です。何から自由を得たのでしょう？

（１）罪のさばきからの自由

人間はみな罪をもっているゆえに、神に逆らっているゆえに、永遠のさばきへと向かっている者です。私たちがどんなに否定しようと、考えないように一生懸命努力しても、私たちは自分の心の中に罪が存在していることを知っています。その罪は必ず神によってさばかれます。**「罪から来る報酬は死です。」**（ヨハネ６：２３）と言います。神の前に罪を犯したなら、—例外なくすべての人が罪を犯しているのですが、すべての人は永遠の滅びに至ります。永遠の地獄が待っています。しかし、感謝なことに、主イエス・キリストはあなたをそこから救い出してくださったのです。あなたは罪のさばきから解放された、自由とされたのです。

（２）罪の束縛からの自由

私たちは罪の奴隷だったのです。イエスを信じる前の私たちができることは罪に罪を重ねることだけでした。私たちは神が喜んでくださることはできなかったのです。それは神のために生きていたのではなく、自分のために生きていたからです。神に喜ばれることのできない者が救われることによって神に喜ばれることができる者へと生まれ変わったのです。罪の奴隷から解放されたことによって、私たちは神に喜ばれることが出来る者へと生まれ変わったのです。だから、パウロはその与えられた自由を用いて正しい選択をしなさいと言います。それは**「愛をもって互いに仕えなさい。」**ということです。また大切な戒めに戻って来ました。クリスチャンの皆さん、あなたには選択があることを考えなければいけません。

２）二種類の選択：肉に従うか聖霊に従うか？　　１６－２３節

あなたには選択があります。かつてのように、肉に従って行くのか、それとも、聖霊に従って生きて行くのかです。そこで、ガラテヤ５：１６から「二つの生き方、二つの特徴」をパウロは列記しています。肉の行ないが１５、聖霊の実が９、この二つを対比しているのです。簡単に見て行きます。

（１）肉の行ない　　１９－２１節

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。:17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。:18 しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。:19 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、

汚れ、好色、:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、:21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」、ここに１５のリストが出て来ました。肉の行ないは神を無視して自分の欲するままを行ないます。

（ａ）性に関する行為

最初の三つ、「不品行、汚れ、好色」はすべて性に関する行為です。

「不品行」：性的不道徳、性的にふしだらな行為です。実は、このギリシャ語は「ポルノ」ということばの元になったことばです。

「汚れ」：行ないがただ汚れているのではありません。その人の思い、考え、ことば、行ない、そのすべてがみだらでわいせつである。つまり、神の清さに全く相反するものです。

「好色」：このことばの意味は肉欲にふけることです。バークレーという神学者は面白い解説を付けています。「人が言うことや考えることを気にかけないほど、自制心を失い、自分の欲望を強引に満たそうとすることである。」と。

人が何と言おうと構わない、私がやりたいのだから、私がしたいのだからそれを選択すると。今はそのような社会になっています。いや、もちろんかつてからそういう社会だったでしょう。しかし今、私たちの周りの何を見ても、私たちはそのような性的誘惑を受ける世界に生きています。テレビやラジオや雑誌、映画、新聞など、ポルノの雑誌や映画が自動販売機で買える国は日本くらいです。アメリカでもそのようなことはありません。青少年の目に止まらないように、カウンターの後ろ側にあって、実際に自分がそこに立ってそれを言わない限り買えないようになっています。日本のコンビニに行くといろいろなものが自由に手に入ります。私たちは今、大変な時代に生きています。清さを語るなら笑われてしまいます。若い皆さん、神が結婚を与えてくれるかどうか分かりません。神のみこころならそうなるでしょう。しかし、その時まであなたが清さを保つことは神の前に正しいことです。今のこんなフリーセックスの世にあって「自分のやりたいことをやればいい、自分が満足すればそれで良い。」と、世の中はそのように言うでしょう。でも、神の基準は違います。清くありなさいと言います。パウロはまずこのような三つの性に関する行為を記しています。

（ｂ）神に関する行為

「偶像礼拝」：創造主でない神を神として崇拝する行為です。神でないものを神として崇拝することです。人間は創造主ではありません。その人間を崇拝するなら偶像崇拝です。また、私たちが愛する趣味や物も創造主ではありません。それを崇拝するならそれも偶像です。人間は神という存在を知っているけれど、従順を要求する神を求めません。私たちの願いを叶えてくれる神を要望するから、そのような神を探し、自分に都合の良い神を選び、そのような存在がなければ自分で造り出すのです。私たちはいかに創造主なる神の前に傲慢な者であるかということです。

「魔術」：非常に面白いことばを使っています。このことばは「まじない、占い」と訳すことができることばです。その意味をもっています。というのは、このような魔術を用いて神との交わりを取るのです。そのようなものは私たちの周りにたくさんあります。死人と話をするとか、占星術、手相、運勢など、クリスチャンの皆さん、私たちも気をつけなければいろいろ時にそのような誘惑があります。「ラッキーだった」、「幸運だった」と言いますが、そのようなことはありません。すべてのことは神が支配しておられるからです。魔除けのものを持ったり、不幸から自分を守ってくれるものなど、もし、私たちがそのようなものに捕らわれてしまうなら、私たちは自分の神がどういう方かがよく分かっていません。これらは二つとも神を神として崇めていない行為です。

（ｃ）人に関する行為

「敵意」：隣人への嫌悪感、隣人に対して憎しみをもつ、恨みをもつ態度のことです。そのように人に対して悪い思いを持っていると、必ず、そこには争いが出て来ると言います。ですから、次に「争い」が出て来ます。

「争い」：人に対して悪い思いを持っていると、必ず、そこには口論と闘争が生まれます。

「そねみ」：ねたみ、嫉妬心です。人が持っているものを自分も所有したいという願望が嫉妬へと変わって行きます。

「憤り」：ずっと憤っているのではなく、カッと怒る、カッと燃える、怒りが燃え上がって来る、そのようなことです。持続する怒りではないのです。怒りはすぐに消えてしまうのです。そういう人はそれが自分の長所だと言って自慢しませんか？「怒るけれどもすぐにその怒りはなくなる、長く続かない」と。ずっと怒り続けている人に比べると私はすばらしいと言います。何であろうと怒ること自体に問題があるのです。ここで使われている憤りとはそういうことです。

「党派心」：利己的な行為で隣人に仕えることなどまったく考えない、そういう人の思いです。みなが自分に仕えるべきだと思っているなら、必ず不和が生まれます。その結果、分裂が生まれます。
「分裂」：二つに引き裂くということです。主が成そうとしている一致を引き裂いて行くのです。そして、当然、そこには「分派」が生まれて来ます。「分裂」の結果です。
「分派」：この「分派」ということばは英語の「異端」（異なった教え）の元になっていることばです。神が何を言われているのかでなく、自分の主張ばかりしていろいろな分派を作ってしまうのです。
「ねたみ」：先ほど見た「そねみ」です。人が持っているものを自分も所有したいという願望が嫉妬心ですが、「ねたみ」はただ嫉妬心を抱くだけではなく、それを持っている人を恨んでしまう行為です。
「酩酊」、「遊興」：どちらもお酒に関することであり、それによってどんちゃん騒ぎをする、乱行をする、そういうことです。
　今、このリストを見て、共通しているのは全部自分のことです。自分中心です。性的なことを見ても自分さえよければ、自分が満足すればいい。神に関しても、私の承認する神、私が求めている神でなければ受け入れない。人に対しても自分がすべての中心なのです。これがここに記されている肉の行ないです。実は、これは２１節を見ると「救われていない人の特徴」なのです。パウロはここでそのように教えるのです。**「こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」**と、こんなことをしている人たちが天国に行くことは絶対にないと言うのです。このように言うと、皆さんの中には「実は、私はイエスさまを信じているけれども、これらのことを犯したことがあるし、このような過ちを犯したことがある。」と言われる方もあるでしょう。パウロはそのことを言うのです。なぜ、このようなことをここに記しているのでしょう？私たちクリスチャンもこのような罪に陥ってしまうことがあるからです。だから、「正しい選択をしなさい。」と言ったのです。
　皆さんに是非覚えていただきたいことは、２１節に記されている大切なことばです。今、見たように、このような人が救われていないというその根拠となることばは、**「こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」**でしたが、この**「している」**という動詞に注目してください。この動詞の時制は現在形です。パウロが言いたかったことは、今、見て来たようなことを継続して習慣的に行なっている人、それが救われていない人の特徴だということです。なぜなら、イエスを信じている皆さんは、悲しいことですが、このような罪を犯したときはどうしますか？そこから離れようとします。内住する聖霊から責められるからです。そこが違うのです。継続して習慣的に行ない続けている人と、罪を犯したときにその罪から離れようとする人との違いです。
（２）御霊の実　　２２－２４節
　後半の**「御霊の実」**と記されているところを見ましょう。２２－２４節**「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。:24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。」**。この御霊の実、別の言い方をするなら、聖霊の実とも言えます。というのは、信者の内に聖霊なる神によって造り出されて行くものだからです。あなたに内住する聖霊によって作られて行くものなのです。ここに**「御霊の実」**と書かれていて九つのリストがありますが、これらは単数形です。先ほど見た１５個の「肉の行ない」は複数形で書かれていました。
　なぜ、そのような違いをしたのか、ここでは１５のリストを見ましたが、肉の行ないはそれ以上にあるからです。そして、九つの「御霊の実」は実は、一つの実なのです。だから、「私はこのリストの中の四つを持っています」とか「三つ持っています」というものではありません。これらは一つです。
「愛」：このことばには主なる神への愛、また、隣人への愛が含まれています。見て来ているように、神が私たちに与えられた一番大切な命令は「神を愛し、隣人を愛すること」ですが、その愛です。
「喜び」：この世がもたらす喜びではありません。私たちがもう知っているようにそれは一時的なものです。この喜びは、神だけが与えることができる喜びです。
「平安」：どんな時にも心が穏やかな状態にあることです。
「寛容」：これは人に対する忍耐です。人の悪に対して寛容であるということです。これはまさに神の愛でした。パウロが「自分は本当に神の前に罪深い存在だ。でも、そんな自分が救われたのは神の豊かな寛容による。」と証しています。Ｉテモテ１：１５－１６**「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。」**

と。神がこの上もない深い寛容を私に示してくださった。でも、私が神に対してして来たことは悪に悪を重ねることだった。そんな私に神は忍耐をもって救いを与えてくださり、赦しを与えてくださったと言うのです。
「親切」：相手の身になってその人のために何かをするのです。思いやりをもって人に尽くして行くのです。
「善意」：人のことを思ってその人に良いことを為して行くのです。
「誠実」：これは信頼に価すること、主に対する忠実さということです。
「柔和」：思いやりがあること。
「自制」：いろいろなことに感情的にならない、欲望をコントロールできる人のことです。なぜ、そのようにできるのか？その人は神が喜ばれることを考えているからです。確かに、私たちの生活の中でいろいろなことが起こって来ます。予期せぬ出来事がいっぱいあります。心が動揺します。心が叫ぶときがあります。「こういうことをしたい！」とか「このようなことはしたくない！」といろいろな思いが出て来ます。その中で私たちはこの状況で何が神に喜ばれるのか、そのことを考えてそれを選択することによって、いろいろなことに流されないのです。つまり、ここで言っている「自制心」をもった者へと変わって行きます。
　今見て来たこの九つの実、イエスを信じているあなたはこのすべての実をもうすでにいただいているのです。先ほども言ったとおり、これらは単数です。では、私たちが目を留めなければいけないことは、なぜ、この九つの実の最初に「愛」が出ているかということです。それは「愛」が一番大切だからです。１３節から文脈を見て来ました。「愛」について語られていました。１３節には**「愛をもって互いに仕えなさい。」**と隣人を愛することが言われていました。コロンビア神学校の新約聖書学の教授であるカウザーという先生は、フィーニシュという神学者のことばを引用してこのように言っています。「愛がその冒頭に上げられていることは偶然ではない。愛はそれに続く他のすべての徳目を包含している。従って、この箇所とよく似ているコリント人への手紙第一１３章４節以下と同様に、この徳目表は愛が表現される具体的な方法を述べていると見なすことができるだろう。」と。
　つまり、いろいろな説がありますが、この「御霊の実」とは「愛」だというのです。よく見ると、もし、私たちが神を愛する者として、隣人を愛する者として成長するなら、間違いなくその人の内には喜びが満ちあふれます。神を愛している時は私たちの心は喜んでいます。心が喜ぶと私たちは平安に満たされます。平安に満たされていると、当然、それは行為となって出て来ます。人々に対して寛容であり、親切であり、常に彼らの最善を考えます。そして、神を愛しているゆえに、神に対して益々忠実に誠実にありたいと願い、そして、柔和な思いをもって、どんな時にも神を見上げて、神が喜んでくださることを考えてそれを選択します。このように見てゆくとき、一番肝心なものは「愛」です。神を愛することと隣人を愛することです。パウロはこの二つは対立すると言います。ガラテヤ５：１７**「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」**、御霊に従って生きて行くのか、それとも、肉に従って行くのか？パウロは、あなたはいつもこの聖霊なる神によって支配されながら生きて行くようにと、そのことを勧めるのです。
　マタイ７：１５－２０にも救われている者とそうでない者の違いが記されています。**「にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。:16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。:17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。:18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。:19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。:20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。」**。
適用：あなたは主に似た者へと日々変えられていますか？あなたはそのことを願って歩んでいますか？あなたは日々主の助けを求めながら歩んでいますか？
　そうであるなら、あなたには御霊の実が見られ、御霊の実が熟しているはずです。
◎信仰者として成長するためには、神の助けをいただき続けること　　１６節
　皆さん、そのためにどうすればいいのでしょう？パウロはこのような教えを与えています。１６節**「御霊によって歩みなさい。」**と言います。**「歩みなさい」**とあります。この動詞は現在形の命令です。先ほども見ましたが、継続して習慣的にこのように歩み続けて行きなさいということです。ということは、私たちが新しい日を迎えるとき、また、その日のどのような瞬間でも「神さま、私の語るべきことば、また、語ることばを、私の考えること、私の想像すること、私の態度をどうぞあなたが支配してくださ

るように、助けてくださるように。あなたに喜ばれることを考え、あなたに喜ばれることを思い、あなたに喜ばれることを語り、あなたに喜ばれる行為を為して行くためにはあなたの助けが必要ですから助けてください。」と、そのように継続して私たちは神に助けを求め続けて行くのです。

もし、私たちがどこかで「大丈夫、神さま、私はできますから」と思うなら、その瞬間に失敗するでしょう？私たちはそれほど弱い存在であることに気付かなければいけないのです。私たちの問題は、神の助けを借りなくてもできると思っている所にあるのです。ですから、神が私たちのうちに働いて私たちの信仰が成長すると、自分に頼るこれまでの生き方を止めて、神に頼る生き方を選択しようとするのです。なぜなら、その方が確実だからです。神だけが何が最善なのかを知っている訳で、神だけがみこころを為して行くための力を持っておられるからです。そうなら、その方に託して行こう、その方の知恵をいただきながら、力をいただきながらその方に導いていただこうとします。

ですから、その次の１８節を見ると**「しかし、御霊によって導かれるなら、」**と書かれています。これも実は現在形を使っているのですが、見て分かるように受動態を使っています。受け身なのです。つまり、私が神を導いて行くのではなく、神が私を引っ張って行ってくれる、導いて行ってくれるのです。でも、そのために私たちに必要なことはそのことを求めることです。「神さま、私には助けが要ります。どうぞ、私を導いていってください。」と。その時に、神は私たちを導いて行ってくれます。そのような歩みを為すときに何が起こるのでしょう？覚えておられますか？Ⅱコリント３：１８**「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」**、イエスを信じたその瞬間からあなたのうちに神の働きが始まりました。あなたが主イエス・キリストに似た者に変えられて行くという働きです。あなたが真に神を愛する者に、隣人を愛する者にと、まさにイエスがそうであったように、神はあなたをそういう人に変えて行こうとするのです。その働きが始まっているのです。あなたが愛において成長するなら、今見て来た残りの八つの実があなたの内に大きく実って行きます。すべてそこから始まるのです。

ですから、私たちの愛に問題があるなら後のことにも問題があるでしょう。すべてそこに戻って行くのです。信仰者の皆さん、私たちが考えなければいけないことは、信仰歴が何年であるかは横に置かなければいけません。これまでどんなことをして来たのかも横に置かなければいけません。私たちがしっかりと覚えておかなければいけないことは、私は主イエス・キリストに似た者に変えられているのかどうかということです。なぜなら、その働きを神は始められたからです。あなたは今見て来たように、本当に神を愛する者として、人を愛する者として成長していますか？神はあなたをそのような人に変えようと働いているのです。もし、私たちが罪によってその神の働きを邪魔しなければ、その働きは私たちのうちに為され続けて行くのです。私たちが神のこの働きを妨げないで歩み続けるなら、私たちは聖霊の実を豊かに実らせた者、すなわち、キリストに似た者へと変えられるのです。だから、パウロは言ったのです。正しい選択をしなさい、どんな瞬間にも、神に助けをいただきながら私たちは歩んでいかなければいけないと。

そのためには、どんな小さな罪も赦さないことです。自分の性格のせいにしてはいけないのです。神はあなたの性格をも変えて行きます。神が忌み嫌われることから私たちは離れることです。神の助けをもらいながら。神の働きを邪魔するのは私たちの罪です。そこから離れなければいけません。

パウロは最後にこのように言って信仰者たちに激励を与えます。５：２５**「もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」**と。**「進もうではありませんか。」**ということばが最後に出て来ます。もちろん、これは現在形ですが、文法的に見てとても興味深いことは、これは激励を与えることばであるということです。実は、ここで使われていることばは本来、軍隊用語です。ここで言わんとしていることは、聖霊なる神の指揮に合わせて歩調を取って行きなさいということです。ちょうど、兵士たちが上官の命令に忠実に従うように、聖霊のその指揮に忠実に従って行くようにと。そのような歩みをすることがすばらしい祝福をもたらすのです。

それはどのような祝福でしょう？あなたがそのように主に忠実に従って行くときに、あなたは変わって来るからです。イエスに似た者に変わって行くのです。あなたは地の塩として人々に渇きをもたらす者になるのです。世の光として光を輝かせ続けて行くのです。なぜなら、あなたのうちに働いておられる主イエス・キリストを見るからです。信仰者の皆さん、私たちがしっかり目を留めなければいけないのはここなのです。隣国では軍服の上にメダルをたくさん付けてそれを自慢している人たちがテレビに映ります。私たちが自慢できるのは、私たちのこれまでの信仰の経験ではないのです。私たちが自慢できるものはただ一つ、私たちの主イエス・キリストです。私を罪から救ってくださり生まれ変わらせてくださり、そして、この主のすばらしさを証する者として私たちを使ってくださるお方です。

　このキリストのすばらしさをあなたは人々に証していますか？周りの人々に輝かせていますか？あなたは本当に神を愛する人として成長していますか？あなたは隣人を愛する者として成長していますか？私たちはこの問いかけをしながら今日を生きることです。なぜなら、私たちが神を愛する者に人を愛する者に成長して行く、そのためだからです。信仰者の皆さん、正しい選択をしてください。神が喜ばれる選択を、神が求めておられる選択を、神の命令に従って行くという選択をしてください。
　今日、皆さんに心からお勧めすることは「神さま、どうぞ私を変えていってください。私は罪深い愚かな者です。その説明をする必要がないことは分かっています。私は変えられたいし、もっとあなたの栄光を現わす者になりたいです。そのために、どうぞ私があなたを愛する者に、隣人を愛する者として成長するように、あなたのすばらしさを人々に証する者として私を変えていってください。そのことを私は心からあなたに求めます。そして、私が正しい選択ができるように、いつも助けを与え続けてください。」と、そのような決心をもって今日から歩んでいただきたい。そのことを心からお勧めします。